

# カナリヤ通信



## 第12号

「カナリヤ通信」では、さまざまな考え方をもちた女性が、社会の中で遅く、それでいて女性らしく声を出して、人生を楽しみながら働く姿を表現していきます。

### ～働き方について考え、気づく～

キャリアアップ

今回は11月9日です。1周年特別記念号を予定しています。

#### 女性が働きやすい職場環境を

私には、女性として仕事をすると、この感覚はありませぬ。逆に特別扱いしてほしくないという気持ちの方が強いと思います。会社としてあまりイメージが良くない、持たせたい、仕事としての価値を高めたい、つまり見られ方を考えたいと考えてきました。自分の会社で「女性が働きやすい環境」を考えた時、見た目を



石坂典子氏  
1972年東京都生まれ。米国に短期留学後、父が創業した産業廃棄物中間処理業の石坂産業に入社。埼玉県所沢市周辺の農作物がダイオキシンで汚染されているとの報道を機に、「私が会社を変えたい」と父親に直談判し、2002年社長に就任。「自然と地域と共生する企業」を目指し、ともに育み、ともに栄える100年先の企業づくりに挑戦。

石坂産業代表取締役

石坂典子氏

私が20歳の時、受付にいたお客様が「私も喜んでくれましたので、女性の友人4人にお願いで受付け業務などをしてもらい、結果的に大変好評でした。そのことから「女性を採用すべきであり、そのために女性用の更衣室やトイレのある建物が必要」と考え、初期投資として新社屋建設に踏み切りました。新社屋が完成すると、次第に海外

の大学や有名大学を卒業した優秀な人材が入社してくれるようになったので、事業者としては、彼らを雇用したからにはより良い魅力的な制度を作らなくてははいけません。有給休暇はもうこの音休制度など必要な制度は次々と整備しました。また、駅から遠いので女性専用の社員寮や送迎バス、住宅に対する助成制度も創設しました。

「チャレンジ」が必要  
私は、社員に対して「新しいことにチャレンジする」という意欲を尊重していきたくて考えています。産業廃棄物というイメージを払拭し新たな価値を創造する力が必要なのではないかと、若い人たちがチャレンジできる場と機会を作る必要があります。

### いつもチャレンジする気持ちで「やりがい」は己を知ることからやる気と決断 役立つ視点持って

が連携して取り組む、それこそが新たな変革であるといえます。変革には優秀な人材はもとより、学生のアイデアも大切です。オープンラボ(共同研究等)を設置すれば、学生には教育の場として、また私たち企業にとってはアイデアをもつ場としてお互いに刺激を受け情報を共有する場となります。



#### やりがいを持つこと

「仕事が楽しい?」と質問して、その答えが「楽しくない」であるとしたら、それはやりがいを感じていないということだと思います。では、やりがいとは何でしょうか。例えば、トイレ掃除でも「使った人が気持ちよく使えるように」と考えるだけで、モチベーションが上がるはずなんです。その仕事でも何を求められているのかを考え実行する。やりがいがあるか、何にやりがいを感じないでしょうか。何にやりがいを感じないか、というアイデアに産学官

#### 働く女性へメッセージ

まずは、仕事において自分でやりがいを見つけてください。貢献できると思うものを一つでも思いから持つべきだし、見つけたいと思います。働く上で色々ありますが、心の持ち方で変えられるし、環境も変わるとも思います。もし、その仕事が好きで、ないと思うのであれば起業者になるか、転職すればいいのではないのでしょうか。要はやる気と決断です。まず役に立つという視点に立って仕事に臨んでほしいと思います。

## TOPから見た女性の働き方

女性が働き続けることは、いまや普通のことになってきました。法律や企業の就業規則などの整備によって、妊娠・出産による休暇も取りやすくなっています。一方、働く姿勢に幅があり、仕事最優先で働きたい人から家庭や趣味に重きを置いている人など多様化してきました。企業サイドも仕事の配分や工夫など工夫を凝らしている一面も垣間見ることが出来ます。そこで今回、企業トップの2人に女性の働き方について話を聞いてみました。

#### 働く環境をより良く

女性の働き方について、子どもがいる人の場合、いま一番求められているのは保育園をどうするか、働く環境をどうにかするか、ということだと思います。待機児童を減らすことはもちろんですが、子育てしやすいように週2日は在宅勤務を認めるなど働き方に多様性を持たせることが大事だと思います。働きたいのに働けない女性を救済する制度があれば、女性の総労働率は格段に上がると思います。また、子どもが突然熱を出し、保育園から呼び出されて午後3時に退社する場合、4分の1休を認めるなども大切なことだと思います。

#### 働き方に多様性

当社では、女性活躍を促進するた

#### 社内制度の拡充の働き方の多様性

社内制度の拡充の働き方の多様性。例えば、時短勤務しながら小さな子どもを育てているお母さんがいますが、仕事を積極的に頑張りたいと意気込み、一定の成果を上げていますので、20人のマネジメントを任せています。仕事を思いきりしたい人には、それなりの働き方をしてもいい、それに対する待遇も付与する。逆に、子育てを中心に考え仕事は適度に考える人もいます。希望に応じた仕事を任せることで、業務の幅に広がりを持てるなど、それぞれのロールモデルが構築され、これから続いていく人たちの働き方に選択の幅が生まれます。また、自分ができる範囲で働けるのであれば仕事を継続することも可能になるので、労働人口が増えると思うのです。

#### 某ヘッドハンティング会社社長

#### えこひいきと取れないように

真面目で頭も良く精神力がある女性には比較的多いので、本気で仕事をしたいと考えている人は、入社後3年で高い能力を発揮する人が多いです。だからこそ、やる気のある人には相応の仕事量と待遇を与えるべきだと思います。

### 希望に合わせ多様な働き方を構築やる気に応じた仕事量と待遇必要「優遇されて当たり前」に不公平感

#### 男性の育児参加について

育児や介護は誰でもできると思いません。しかし、実際は難しいのではないのでしょうか。私も共働きで小さな子どもが2人いますが、週の半分は単身赴任なので妻に任せきりです。しかし、家には育児を積極的にやります。妻には息抜きをしてもいいように遊ばせてもらっています。



しかし、それは私がマネジメント職で時間がある程度、柔軟性があるからです。いわゆる社長という「成果主義」の仕事をしているからですが、特に子育て世代の融通が時間労働で管理されるので、融通が利きにくいというところがあります。子育てのために早く帰らなくてはならないと評価も給料も下がります。世帯年収が減る場合もあり、選択と集中で奥さんが働きながら育児をして、男

#### 性は仕事に集中するということになります

私の場合はいくつかでも成果が求められるので、手作業よりも企画力、つまり頭で考えることが主な仕事となります。例えば子どもを風呂に入れても仕事はできません。しかし、作業する人、つまりワーカーに当てるのは職場にいないと仕事になりません。そのワーカーと言われる人が職種にもよりますが85%程度いること、男性の育児参加が進まない理由の1つだと思います。

これから女性の社会進出が進んでいきますが、ライフイベントが男性よりも多く、また働く姿勢に幅があるので、一生懸命働きたい人から家庭や趣味を中心と考えている人まで、それぞれにあったロールモデルを構築すること、今後、社会で求められていることだと思います。

某ヘッドハンティング会社は企業からの要請を受け、それに見合った人材を全国から探し出しマッチングしています。カナリヤ通信編集部では、社長(男性)に現在の人材ニーズをお聞きするための取材申し込み、快諾いただきました。ご本人の希望により、実名と写真の掲載は控えさせていただきます。

### 多機能LEDライト MAmoria (くまモンバージョン)

#### 地震の揺れ感知しすぐ点灯! 懐中電灯にもなる優れもの

東北地方太平洋沖地震や熊本地震など日本列島は地震が頻発しています。特に熊本地震の本震は真夜中、それも最大震度7、被災した住民は暗がりの中、心細かったことでしょう。そこで今回紹介するのが、ブラザーエンタープライズが販売している非常用ライト「マモリア」の「くまモン」バージョン。震度4相当の揺れを

感知すると自動で25分程度点灯する優れもの。万が一、地震による停電で真っ暗になっても足元を明るく照らしてくれる上、ホルダーから外すと懐中電灯としても使用できます。また、周囲が暗くなると人に反応して約10秒点灯するので、壁に据え置くことで通常時もセンサーライトとしても大活躍です。玄関や廊下、寝室などに設置することで、いざという時、愛らしい「くまモン」が明るく照らしてくれる上に、すぐに持ち出せるので安心です。オープン価格。東急ハンズANNE X店やオンラインで販売中。「くまモン」バージョンの売り上げの一部は熊本地方の復興支援活動に寄付されます。

「多機能LEDライト MAmoria (くまモンバージョン)」を抽選で1名にプレゼント

住所、氏名、電話番号を明記の上、編集部へファクスから応募下さい。締め切りは10月21日(金)です。



スマホ、携帯電話から応募できます!



### 唯一でユニークな存在だと意識する

クオレシー・キューブ代表取締役会長 岡田 康子さん



私は新事業のコンサルティング会社を経営していますが、自分の一環で起業家精神の研究をしています。事業を起す心理的エネルギーの源泉は「人と違う」という意識であることが分かりました。起業家だけでなく、今や技術や社会の急激な変化の下、今までの事業から脱却し、違いを求めて新しい事業を推進していかなくては、既存の企業も存続できなくなる、それは建設業界も例外ではないでしょう。このような時代に必要なのは変化への対応力です。

そのためには一人ひとりが自立して判断し、行動することが重要です。誰もが起業家的な発想、つまり、自分や自分の仕事は唯一でユニークな存在であるという意識を持つことが大切なのです。その意識を持つことが、組織の中で必要とされるエンプロイアビリティ(雇われ続ける能力)を高めていくことでもあります。指示されたことだけをやるのであればAIやロボットにはかきません。エンプロイアビリティを高めるためには、昨日の自分とは違う自分、他とは違う自分を作り続けることが必要なのではないでしょうか。

\* おかげさまで発行1周年を迎えます \* 「カナリヤ通信」は来月で発行1周年を迎えます。1年間、取材をしてきた編集部としての1つの結論は「女性が働きやすい職場は、男性にとっても働きやすい職場である」ということです。そこで、次号では特大版を発行、さまざまな課題・事例を取り上げます。

### 自慢の作業着大募集

#### 「こんな作業着がほしい！」

自慢の作業着を大募集! おしゃれ、カッコいい、快適などなんでもOK、自慢の作業着を紹介して下さい。応募をお待ちしております。締め切りは10月21日(金)です。電話03-3259-8711、または電子メール (canaria@kensetsunews.com)。

お問い合わせ 株式会社日刊建設通信新聞社 カナリヤ通信編集部 TEL03-3259-8711 FAX03-3259-8730

ご意見・ご感想、プレゼントの応募は canaria@kensetsunews.comまでお寄せください。 「カナリヤ通信」は、日刊建設通信新聞社の登録商標です。



webで公開中